



大臣官房技術総括審議官賞

部門
04

スマート農業技術等の開発・普及部門

有限会社横田農場

データを活用する農業の実践と普及



データで進化する大規模稲作経営

～収集・分析・改善を繰り返し、生産性向上を実現するスマート農業の実践～

概要

- 稲作規模拡大に伴い、資材や作業のわずかな無駄が経営全体での収量に影響するとの課題が明らかとなり、経験や勘だけでは対応が難しくなったことから、データの収集・分析・活用による経営改善に取り組んだ。
- 収量データや気象、生育、病虫害、資材投入量など多様なデータを収集。研究機関や農機メーカーと連携し、分析結果を栽培改善に反映している。

成果

- 180haを田植機・コンバイン各1台で管理する独自の経営を実現。多様な品種・栽培方法を組み合わせ、データ分析に基づく改善で高い生産性を確保している。
- 水田地帯で地域の担い手として農地を集積。土地改良区や地権者の協力を得て規模を拡大。
- データ活用の考え方を講演や情報発信を通じて全国の稲作経営者に共有。スマート農業普及のモデルとなるとともに、食育や啓発活動を通じて、食と農の理解促進にも取り組んでいる。

基本情報

事業開始年度
2016年

活動年数
10年

活動地域

茨城県龍ケ崎市

審査委員からのコメント

180ha・400筆超という複雑な営農をデータで制御し、収量指数、60kg当たりコスト、営業利益率、賃金まで定量成果を示している点が極めて優れる。機器導入ではなく経営・作付体系全体を変え、全国への知見還元まで行う実装型スマート農業の好例。